2021 年度 JICA 地球ひろば　国際理解教育/開発教育指導者研修

国際理解教育/開発教育　学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	伊東　望	学校名	私立　宮崎学園中学・高等学校
教科（科目）・領域	現代文	対象学年（人数）	３　年　B　組（　２９　名）
実践年月日もしくは期間（時数）		令和３年　１２月６日　（　５　時間）	

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：評論「他者を理解するということ」（鷲田清一）数研出版

2. 実践する教科・領域：

3. 学習領域

	1	2	3	4
A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：

他者理解においては自己理解が欠かせず、自己理解のためには他者とのかかわりが必要であるという関係性について理解する。また、他者理解において重要なのは「同じ」ことではなく、お互いの「違い」を理解しあうことだという作者の考えに触れ、他者理解への思考を深める。途上国支援の経験のある人の話から、文化を異にする人たちと問題を解決するためにとった行動から現実社会で他者理解を実践する上で大事なことについて考える。

5. 単元の評価規準	①知識及び技能	文章中の「感情的な共感が他者理解ではない」ことについて理解する。
	②思考力、判断力、表現力等	文中の例から、他者理解のためには、「他者を他者として認識すること」や「他者を理解しようとする姿勢」が大事であるという筆者の論を読み取ることができる。
	③学びに向かう力	国際協力に携わる人が経験した話から本文理解を深めようとする。また、本文で理解した考え方を持って、異文化に生きる人たちを理解しようとする。

6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童／生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 自分と似たような傾向を持つ人とだけ関わることを好む人の増加や、コロナ禍により、行動範囲、活動範囲に制限ができてしまったことなどと併せて、昨今、他者理解の機会や必要性を感じなかったり、苦手意識を持つ生徒も多い。また、特定の宗教を持たない者の多い日本人にとって、文化や宗教に基づく行動から相手を理解するよりも「相手の立場に立って気持ちを考える」ことが重視される傾向にある。しかし、この評論文を理解することにより、相手の立場に立ち、相手と同じ感情になることが他者を理解することのすべてではないことを知り、新たな視点で人とのかかわり方に関して考えていけるようになることを期待したい。また、教材を超え、自分たちとは文化の違う人たちの行動や考え方が、習慣や宗教に基づくものであるを理解することで、感情的な判断を超えて、「他者として他者を理解すること」が大事であり、寄り添いながら「相手（の考えや行動）を受け入れていくこと」や、「相手を理解しようとする姿勢を持つこと」が大事であることに気付いてほしい。また、そうすることで自分のことも客観的に考えることができるようになり、自己理解にもつながると考えている。 【児童／生徒観】 このクラスは「グローバル」「スポーツ」「音楽」の３つのコースから編成されている。「グローバルコース」の生徒は６名であるが、この生徒たちは１年生のころから週に１回SDGｓに関する授業を受けており、アクティブラーニングにも比較的慣れている。この生徒たちに影響を受け、クラス全体として学びの姿勢に積極性が見られる。１学期には「オリンピックの開催是非」についてをテーマとして小論文の書き方とディベートの授業を行い、「主観」と「客観」的視点、考え方について授業を行った。 【教材観】 哲学者である鷲田氏による評論文で、「自己」や「他者」に関するフロイトの論を元に、「他者理解」について論じている。本文では、「感情的な他者理解」によって「看護」を難しいものとしてしまっている現状や、「調停」における例を用いてわかりやすく説明している。そのうえで、他者を理解するときに、「自分との違い」を理解し、「相手を分かろうとする姿勢」こそが大事であり、そのためには他者を他者として認識し、理解をしていくことが大事であり、それは共感ではないところに存在しているものだと述べている。鷲田氏の文章から、他者理解の方法を学び、異文化への理解へとつなげたい。 【指導観】 教科書の評論から他者理解への考え方を深めさせたい。その上で、国際協力の世界で仕事をしている人たちの話を聞いて、違いを認め、相手のことを尊重し、理解し行動していくことの大事さを知ってほしい。 また、ユネスコスクールとしての活動がスタートしたので、全体で共有しているSDGｓカレンダーを使って、他教科との連携（世界史）を行っていきたい。世界史の授業で現在のアフガニスタン情勢に対しての学びを深めることと、鷲田氏の考えに基づいた視点で考えることで、「怖い」「大変」というような感情的で表面的な感想から脱出し、相手の文化や考え方などのバックグランドを理解した上で物事を考えることの大事さを知ってほしい。

7. 単元計画（全　5　時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
1	内容理解① ・　「他者を理解すること」について考える	・「他者を理解する上で大事だと思うこと」についてグループで考え発表する。 ・本文通読 ・語句の意味調べ	・　辞書
2	内容理解② ・　看護と調停における例から「他者理解」について筆者の考えを読み取る。	「人は一個の全体としてとらえられるほどまとまった存在ではない」／「理解≠感情の一致、意見の一致」／「他者としての他者」について筆者の考えを読み取る。	
3	内容理解③（まとめ） ・　他者理解における筆者の考えをまとめる	「自分にはとても了解しがたいその想いを、否定するのではなくそれでも了解しようと思うこと」／「わからないままに身をさらし合う果てしのないプロセス」／「自分のことをわかろうと相手が自分に関心を持ち続けていてくれること」の文章から他者理解に関する筆写の考えを読み取りまとめる。	
4 本時	発展① ・　途上国支援の中で、「他者を理解すること」の大事さを感じた経験談から、筆者の考えに対する理解を深める。 ・　「シンパシー」と「エンパシー」の違いを理解する。	・元隊員の話から他者理解について必要なことを考える。 ・「シンパシー」「エンパシー」という言葉から他者理解の姿勢を知る。	・　JICA デスク宮崎田代さんインタビュー（リモート） ・　クロスロード ・　ブレディみかこ『他者の靴を履く』抜粋
5	発展② ・　「他者理解」について、評論を通して学んだこと、経験者から学んだことを踏まえて、自分の考えを述べる。	「他者理解」に関して、新聞と本を読んで小論文を書く。	・　中村哲『大河の一滴』からの抜粋 ・　新聞記事

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：鷲田氏の評論の中に出てくる「他者理解」に関する考え方を深く理解するために、ブレイディみかこさんの『他者の靴を履く』に出てくる「シンパシー」と「エンパシー」の違いを読み理解をする。その上で、途上国支援に関わった人の経験談を通して、文化や育った環境を異にする相手に対する「他者理解」において「その人と同じ気持ちになること」や「自分と同じ気持ちになってもらうこと」を優先することよりも、「理解しようとする姿勢（を持ち続けること）」が大事であることに気付く。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （10分）	1　今日やることの確認 ①前時まとめた自分のノートを用いて筆者の考えを振り返る 「他者理解において鷲田さんはどのようなことが大事だと考えていましたか。」 ・感情的に判断しないことが大事 ・世の中には自分とは違う考え方の人がいる ・自分と違う考え方を持った人でも理解することができる。 ・理解することはその人と同じ考えを持つことではない。 ・傾聴の姿勢を持つことが大事 ②「他者理解について、人の気持ちに自分をぴったり合わせるよりも、相手に関心を持っているんだという姿勢を持ったり、伝えたりすることが大事だと述べていました。まずはこの文章を読んでみてください」 「ここに出てくる「シンパシー」と「エンパシー」という言葉は、まさしく鷲田さんの評論に出てくる内容と一致します。鷲田さんが他者理解に於いて大事な能力だと言ったのは、この文章に出てきているところでは「エンパシー」と言ってます。今日は､外国で仕事をした経験を持つ人の話から、筆者の考えに対する学びを深めてみましょう。」	授業前にプリントを配布しておく ・意見が出にくいときには近くの生徒と話をさせる。 「理解」ということが、他人と同じ気持ちになること、より具体的には他人と同じように感じたり、同じように考えたりすることだとしたら、そんなことは人間にはおそらく不可能であろう。 『他者を理解するということ』 ・出てきた意見を簡潔に板書する	ノート （授業の最後の時間を使ってまとめたもの） 教科書 「他者を理解するということ」より
展開 （35分）	2　元隊員の話 ①ＪＩＣＡデスク田代さん（ラオス・看護師） 「田代さんは、青年海外協力隊員の看護師としてラオスに行かれていました。田代さんが現地の人と活動する中で感じたことについてお話していただきます。エピソードの中で気になったことはメモを取っておいてください。」 「田代さんのお話の中で印象に残ったことを発表してください」 ・ラオスはごみをごみ箱に捨てない ・感情的な判断は解決につながらない ・自分の価値観を相手に押し付けることはよくない 「衛生状況を向上させるきっかけになった掃除の	 →現地での活動を通して他者理解についてどのような考えを持ったか 	・ブレディみかこ 『他者の靴を履く』 ・エンパシー：他者の感情や経験などを理解する力…能力的なもの／同じ意見や考えを持っていない相手に対し想像力を働かせる ・シンパシー：誰かをかわいそうだと思う感情／考えや理念への指示や同意を示すこと…感情的なもの／共鳴する相手に対する心の動き テロなどで分断が進む現代においてエンパシーは重要 (田代さん動画)13 分 相手を理解したい、相手に理解してもらいたい、と思い試行錯誤したが、感情移入すればするほどうまくいかなくなった。

	時間でしたが、田代さんは最初、どんな行動をとりましたか。」 ・呼びかけ／感情に訴える／自分から動く…①（板書） 「田代さんが解決しようとしていた問題は「衛生環境改善」です。この問題を解決するために①は無駄でしたか。それとも何か役割を果たしたのでしょうか。」 ・空回りしてあんまり意味がなかった。 ・相手に伝わっていなかったから意味をなさなかった。 ・シンパシーでは問題解決は難しい。 ・相手を理解しようといろいろやってみたことが結果的には問題解決につながった。 ②クロスロード　大竹さん（ラオス・助産師） 「この記事を読んでみてください。田代さんと同じ様に医療に従事した方のインタビューです。大竹さんが活動の中で壁にぶつかったことがありましたが、問題はどこにあったのでしょう。」 ・自分が頑張れば相手にも伝わり、相手もやる気になってくれるに違いない。 ・仕事よりプライベートを優先する人に対する腹立ち。 ・現地の人の「命に対する責任感のなさ」への怒り 「そうですね。大竹さんはうまくいっていなかったとき、相手と向き合うときシンパシーが優先されていました。では現地の人を理解するためにはどうすればよかったのでしょうか。」 ・誰かに相談（現地の人／日本人の同僚） ・現地の生活に馴染んで友達になってその人たちを理解する ・自分の思いを伝える ・問題解決のために目標を立てる 「みなさんが考えたように、人に相談することによって自分の抱えている問題を客観的に考えることや、相手が置かれている状況を知ること、これはエンパシーにつながるそれから自分の思いを伝えることも大事です。ただし、どう伝えるのか、ということは大事です。」 ③「少し質問をします。」（プリント配布） 「このプリントにある、ハグをする、待ち合わせ、家族の自慢話、お礼、清算の仕方、それぞれ考え	→意見が出てこないときには、前出の「シンパシー」と「エンパシー」に当てはめて考えるよう促す。 	クロスロード記事 （12 分） 仕事に対する考え方の違いから溝が深まり、相手を理解したいとも思わなくなっていった。距離ができたことで相手のことも自分のことも客観的に見ることができるようになり上手く付き合っていけるようになった。

まとめ （5 分）	方は違うと思います。中でも④お礼に関することですが、日本人の多くはお礼を述べると思いますが、日本人以外はあまりこの習慣がありません。もし、招いた友人がお礼を言わなかった時、あなたは少し違和感を感じました…その先を考えてみてください。嫌な気分だから二度と招かないと思うかもしれない。あるいは何か気に障ることがあった？と相手にその理由を問う。自分だったらどっちを選びますか。自分とは違う習慣を持つ人に対して怒ったり、距離を置くのではなく、「自他との隔たり」として受け止めることができれば、相手といい関係を築けるでしょう。相手の習慣を理解できていたら、相手を理解していくことにもつながりますね。今日の授業で感じたことを発表してください。」 ・相手のバックグランドを知ろうとする姿勢。 ・自分と違う考え方を持った人を頭ごなしに拒否したり否定したりしないこと。 ・相手の考え方を知ることイコール相手のすべてを受け入れることでなくてもいい。 （まとめ） 「最初の授業で「他者を理解する上で大切なこと」は「相手の立場に立って物事を考えること」と答えた人が多くいました。私たちは小学校の時から「道徳」のような授業を通して「相手の立場」に立って物事を考えることをいいことだと考えることが多かったはずですが、鷲田さんみたいな考え方もあります。ぜひこんな考え方もあるんだということを知ってほしいと思います。ブレイディみかこさんの文章の中に『テロなどで分断が進む現代においてエンパシーは重要』という言葉がありました。このことについて次の時間は具体的に考えていきたいと思います。今日扱ったことに関しての感想はノートに書いておいてください。また、授業で使ったプリントはノートに貼っておいてください。」 「次の時間はアフガニスタンのことについてやりたいと思います。ちょうど世界史の時間にアフガニスタンの歴史について扱うということですので、しっかり勉強してきてください。」	配布プリント ①半年ぶりに両親と再会したときにハグする。 ②友人との待ち合わせの時、約束の時間より前に到着するよう心掛ける。 ③他人に家族（両親・兄弟）の自慢話を積極的にする。 ④他人の家に招待されたら。お礼の言葉を述べる。その 1 週間後にその友人に会ったら再度お礼を述べる。 （　　） ⑤　仲の良い友人 3 人で食事をしたらそれぞれが自分の食べたものの清算をする。（　　） プリント 他者理解において大事なことは… ★シンパシーとは… ★エンパシーとは… ①　ＪＩＣＡデスク宮崎　田代さん ②　青年海外協力隊員　大竹さん 二人のエピソードから分かったこと

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

国際協力に携わる人の話や、資料に出てくる言葉から、「シンパシー」と「エンパシー」の違いを判り「相手を理解しようとする姿勢の大切さ」を読み取ることができる。またそのことを、本文と照らし合わせ、筆者の主張に対する理解を深めることができる。（ノート、評価プリント）

10. 学習方法および外部との連携

・鷲田氏の評論を元に、他者理解に対する考え方を広げていくことを目標とする。

・JICA デスク宮崎の田代さんにインタビュー動画の依頼。（現地の人との関わりの中であったエピソード）

・次の授業で「エンパシーによる他者理解」を行うため、アフガニスタンや中東について扱う時期の調整を社会科担当教員と行った。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

・所属する高文連国際ボランティア部門に所属する学校に対して、授業公開の案内を行い、教科や学校を超えた学びの共有を行った。

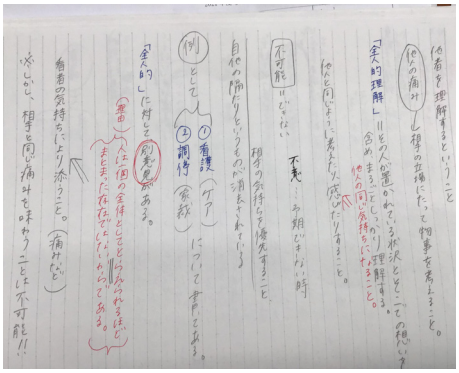
・ユネスコスクール認可に向けて、校内ですべての教科でＥＳＤカレンダーを作成し、クロスカリキュラムを行いやすくしている。

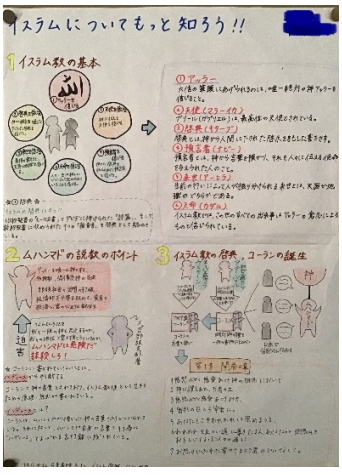
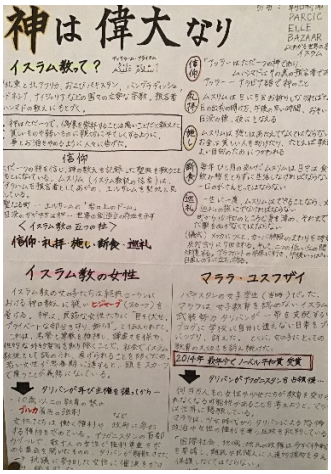
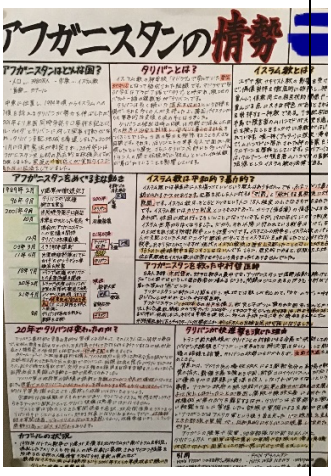
・ＳＤＧｓや国際理解に対して興味を持ってもらえるような校内掲示や、図書館とのタイアップ展示を普段から行っている。

・担当するインターアクト部の生徒が校内にＳＤＧｓを広めるための校内放送を行っている。

【自己評価】

12. 苦労した点	・「他者理解」と「異文化理解」をつなげるために、教科書とは別の教材探しに苦労した。 ・1 時間で「筆者の主張の振り返り」「シンパシー&エンパシー」「動画&記事」と扱う内容が多くなったことが気になったが、2 時間をかけると中途半端になるため、テンポに気を使った。
13. 改善点	・「エンパシー」と「シンパシー」の両方についてもう少し丁寧に扱いたい。 ・単元計画後半がかなり窮屈になってしまった。しかし、生徒の考えをアウトプットしたり、お互いの学びの共有にもう少し時間を取りたいので、前半部分を工夫する必要がある。
14. 成果が出た点	授業終了後、生徒にアンケートを行った。 ①今回の授業にはしっかり参加できた。（はい 100／いいえ 0／わからない 0　） ②評論で筆者の主張したい内容が理解できた。（はい 86.7／いいえ 0／分からない 13.3） ③他者理解について自分なりの考え方を持つことができた。 （はい 96.7／いいえ 0／わからない 3.3） 授業を行ったクラスは、２年時より担当しているクラスで、普段から単元学習の中に時事問題や、国際理解教育と絡めることにより、知識を教え込むことだけでなく、思考の深まり、広がりを生徒に与えたいと考えている。その中で、「自分なりの考えを持つことができた」生徒が 90%を超えたことは良かった。 また、国語科内でこの指導案を共有し授業を行った。これまで、なかなかできずにきたことなので一歩前進した。

15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	①今回の単元は共感することが多かった。普段、友人の相談に乗る時、自分の経験したことのないことに対してどう声を掛けたらよいのか分からず上辺だけで答えていて、そのことに対する罪悪感がすごくあった。しかし、それでもいいのだ。その人の力になりたいと思い寄り添って話を聞いてあげるだけでもいいのだ。「共振しないこと」は冷たそうに見えて、知りもしないのに自分の意見を押し付けないのだから本当の優しさなのだと思えるようになった。  ②３年間部活を続けてきてたくさん悩んだ。わかってくれないチームメイトに傷ついたり腹が立ったりしたこともたくさんある。しかし、自分は自分で、他人は他人だ。そんな風に思えたら苦しまずに済んだことがたくさんある。でも、相手の気持ちが理解できなくて悩んだ経験があるからこそ、この単元に共感できているのかもしれないとも思う。 ③「シンパシー」も「エンパシー」もどちらも「他者」がキーワードだ。エンパシーは元々私たちに備わっているものである。だから、これから大事にしていかなくてはならないのは、自分と他人を照らし合わせることに重点をおいたエンパシーだ。 ④他人の立場に立って物事を考えたり感じたりするのは人としての礼儀だと思っていた。「全人的理解」という言葉は、これまでずっと言われてきた「人の気持ちが分かる人になりなさい」という教えそのものだ。しかし、それに囚われすぎて、人間関係がうまくいかないとき、相手が自分を分かってくれないことを責めたり、相手を理解できない自分を嫌になったりしてきた。しかし、この評論を通して、すべてを理解したり、理解してもらったりしなくてもいいのだと分かり、気持ちが楽になった。 ⑤他者と関わる際には、相手の背景にあるものを知り、関係を保つことが「他者理解」である。他者を理解するだけでなく、自分とその人との違いを理解できるようになることが大事。 ⑥他者を理解することと、他者を知ることは違う。私は自我が強いので、他者を理解し寄り添うということが苦手だ。しかし、その分、自他の隔たりを程よく保つことは得意だ。そのためには、他者を理解することよりも、他者のことを知ることが大事だ。また、その他者が外国人である場合は、特に注意しなくてはならない。言葉で超えられないものもあるから。相手の国の文化的背景にある宗教や習慣を知っておけば、理解しがたいことも「差異」くらいに感じられるはずだ。 ⑦私はバレーボール部に所属している。チームスポーツは意見のぶつかり合いも多い。考え方や能力の差もあり、話し合っても余計にこじれることもある。しかし、目標としていることが同じだから、少し距離を置いたり、たくさん話し合ったりしてお互いを認め合い、一緒に努力できる。田代さんの話はまさにそうだった。世界にはいろんな人がいる。でも、平和な世界の実現という目標は一緒なはずだ。相手のことをすべて理解することはできなくても、想像することはできる。相手を理解しようとすることを忘れずにいたい。 ⑧ある時、友達から送られてきたメールの内容が理解できなかった。今振り返っても理解しがたい。しかし、その時、その友達がどんな意図でそのメールを送ってきたのか考えた。相手を理解するために一生懸命考えること、答えが出なくても、自分には理解できなくても、その時の相手のことを考えた行動、これが「他人を理解すること」だと思う。

	⑨シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』に「人の傷を見て笑うのは、その傷の痛みを知らない者だ」というセリフが出てくる。もちろん経験したことのない痛みは分からない。しかしその痛みを想像し、相手の立場から考えることはできる。幼い子供が喧嘩をしているとき、大人は「相手はどんな気持ちだろう」と問う。子供は「いやだ」「かなしい」などと答え、相手に謝る。このように他者を理解するということは、ある程度の考えが一致していることだと考える。他者を理解できれば、傷を見て笑う人がいなくなり、痛みを分け合える仲間になれるはずだ。 ⑩授業の中でアフガニスタンについて考えた。知らないことが多かった。私はこれまで教育におけるジェンダー格差などはあってはならないと思ってきた。しかし、調べていくうちに、アフガニスタンの人たちの守ってきた宗教に対する思いを知ると、考えが少し変わった。ブレイディみかこさんの文章の意味がよく分かる。耳を澄ませ、聞く耳を持ち、知識や他者の考えを得ることで自分の視野を広げ他者を理解できる人間になりたいと思う。 ⑪他者との関わりの中で、いろいろと悩んだり葛藤したりすることがある。そんな時、「自分は自分、他人は他人」と自分に言い聞かせると少し楽になる。しかし、「他人は他人」と思っているとき、心のどこかで相手に対する批判めいた気持ちがある。「自分は自分」と思っているとき、その向こう側にあるのは、他人を否定することではない。自分と相手との間の隔たりを認識することでその先に進むことができる。 ⑫私は他者の気持ちが分からないことがある。意見が違ったり、すれ違ったり。しかしそれは、すれ違ったことに対して私が相手を理解しようとしていないことが原因だと思う。相手の気持ちを丸っきり理解することは不可能だし、意思の疎通ができることは奇跡だ。全く同じ性格、育った環境、価値観…そんなものは存在しない。だからこそ違いを認め、大切にする。これから私が身に着けるべきスキルはエンパシーであり、人に寄り添い理解するための能力だ。エンパシーを身に着けた上でシンパシーという感情を意識していきたい。（提出された感想文より抜粋）    【異文化理解のために生徒が作成したレポート】
16. 授業者による自由記述	普段の国語の授業の中に「国際理解」や「開発教育」を取り入れていくことで生徒たちは、単元内容を「じぶんごと化」できると考えている。 今回授業を行ったクラスは、これまでに「権力とは何か／杉田敦」「僕らの民主主義なんだぜ／高橋源一郎」「ゴリラから学ぶ／山極壽一」などの評論の単元を通し、筆者の考えを読み取り、さらに、自分の考えを持つことを目標とし学んできた。普段本を読まない生徒も多く、「筆者の意見の要約」と「自分の感想や考え」の区別がつかないと

	ころからのスタートであったが、２年間かけて少しづつ「じぶんごと化」できるようになってきた。今回の単元では、文化や宗教の違う人たちに対する理解は、自分の感情と切り離して考えなくては限界があるということに気付いてほしいという思いを持って授業に臨んだ。しかし、先にゴールを１つに決めてしまったことで、「無理やり感」が強くなってしまい、結局、授業を最初から組み立てなおす羽目になってしまった。また、「日本人特有のシンパシー」だからこそ解決できることもある、という生徒の意見について、もう少し丁寧に取り上げ、扱いたかった。 　授業終了後、生徒はよく自分の感じたことや考えたことを話に来てくれる。今回はやはり「シンパシー」と「エンパシー」に関する話が多かった。ちょうど話題になっていた本を取り上げたことも生徒にとっては分かりやすかったのかもしれない。 　今回指導者研修を受けさせていただくのは 2 回目である。前回、全国の先生方に刺激を受け、また、講師の先生方の講義や、指導案作成に対してご指導をいただき、たくさんの学びを得ることができた。今回、2 度目の参加をさせていただく機会を得ることができ、私は本当に恵まれている。大津先生は、たくさんの質問をする私に、いつも丁寧にお返事をくださった。「持続可能性」「積極的平和」「ＵＮＤＰ」「構造的暴力」「開発性」・・・学びの中で、自分を鍛え、生徒に向き合うことができることはしあわせなことだとつくづく感じた。 　今回の目標の１つは、たくさんの人を巻き込んで研修に参加することでもあったので、県内の先生方に対して、授業公開を行ったり、校内国語科で指導案を共有し授業を行ったり、社会科とのクロスを行ったりすることができた。このことも大きな収穫であった。授業計画やその他、相談にのっていただいた、ＪＩＣＡデスク宮崎の田代さんありがとうございました。また、ＪＩＣＡ地球ひろば、加藤さん、ＪＩＣＡ九州の中野さんには、授業当日、遠くから足を運んでいただき、授業を参観いただいた。本当に感謝しています。ありがとうございました。

参考資料：

・「他者の靴を履く　アナーキック・エンパシーのすすめ」ブレイディみかこ著／文藝春秋
・「グローバルな時代を生きるための「異文化理解入門」」原沢伊都夫著／研究者
・「多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック」
多文化共生のための市民性教育研究会編著／明石出版
・「わかりあえないことから」平田オリザ著／講談社現代新書
・「子供の「脳」は肌にある」山口創著／光文社
・「異文化理解」青木保／岩波新書
・「他者を感じる社会学～差別から考える」好井裕明／ちくまプリマー新書
・「異文化理解の問題地図」千葉佑大／技術評論社
・「はげます技術」あさくらゆかり／サンマーク出版
・「クロスロード」２０２１年２月１日発行
https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/202102/pickup_02_20/index.html

JICA デスク宮崎　　田代さんインタビュー概要

協力隊員時代の話し＠ラオス

衛生観念に対する考え方から学んだこと

→　看護師として派遣された。（現場環境に関する教育も求められた。）

ラオスではごみをごみ箱に捨てない／掃除は究極の状態までしない　ことが一般的
（道端にポイ捨てするのと同じように部屋の中でもごみをポイ捨て。院内も同じ。）

【対策】
①ごみ箱を使うよう呼びかけ　②率先してごみを集めて捨てた
③捨てたくなるようにごみ箱をデコレーション　④ブチギレてみた
⑤優しく諭してみた　⑥完璧な状態にしてみて奇麗な部屋の快適さを訴えた

【結果】
まったくなし

このことで同僚らとの関係はギクシャク。私自身孤独感を感じることが多くなった。
何が何でも解決したい！

→　日本の看護学校で使った教科書の中の衛生観念に関する資料をラオスの看護師たちに！…失敗

冷静になり、掃除の時間を作ってみた。

→　最初は文句を言っていたが、数日で慣れた…環境改善！

- 相手を理解しようと試みても、小さいときからそうやって育ってきたラオスの人たちの衛生に対する考え方は私が理解したからといって改善しない
- 私の考えを無理やり押しつけようとしても、相手は私にはなれない。

→　相手の立場に立つこと、相手を私の立場に立たせてみることは、逆に問題を厄介にする

- 解決すべき問題に直球がベター（問題を客観的に考える）
- 所詮考え方や感じ方はみんな違っている

○ 間違った他者理解は自分を苦しめる／相手も苦しめる
○ 客観的考え方（そ～ゆ～人もおるよね）がラオスでの自分を楽にしてくれた
○ 問題が解決したら現地の同僚との仲もよくなっていった

配布プリント

次に挙げる事柄はあなたの国の人にとって当たり前のことですか。そうだと思う場合は○を、そう思わない場合は×を、どちらともいえない場合は△を記入してください。

① 半年ぶりに両親と再会したときにハグする。（　　）

② 友人との待ち合わせの時、約束の時間より前に到着するよう心掛ける。（　　）

③ 他人に家族（両親・兄弟）の自慢話を積極的にする。（　　）

④ 他人の家に招待されたら、お礼の言葉を述べる。その1週間後にその友人に会ったら再度お礼を述べる。（　　）

⑤ 仲の良い友人3人で食事をしたらそれぞれが自分の食べたものの清算をする。（　　）

他者理解において大事なことは・・・

★エンパシーとは・・・

★シンパシーとは・・・

①ＪＩＣＡデスク宮崎　田代さん

②青年海外協力隊　大竹さん

二人のエピソードから分かったこと